

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O171600281		
法人名	有限会社 四海堂		
事業所名	グループホームおだやか		
所在地	北海道檜山郡上ノ国町字上ノ国274番地の1		
自己評価作成日	平成25年11月18日	評価結果市町村受理日	平成25年12月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0171600281-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は国道をはさんだ向かい側には協力医療機関である上ノ国町立診療所があり、700m弱程のところには消防署がある上ノ国町内の住宅地に位置している。国道沿いではあるが、自動車等の騒音はほとんど気にならない場所であり、ご近所の方々との自然な交流を持つ事が出来ている。上ノ国町は、日本海に面した漁業と農業の盛んな地域で、新鮮で豊富な食材を生かした食事を提供している。漬物など入居者様の馴染みの食べ物で店頭に並ぶものとの違いが大きなものに関しては、自分たちで作って味を再現するなど、食及び食文化の継承に関して特に力を入れている。また、概ね1ヶ月に1回、認知症介護指導者を講師に招き社内研修を行い、不適切なケアや虐待を防止しながら個別ケアに励んでおり、会議にて目標管理をしながらチームケアに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

上ノ国町は農業と漁業が盛んな所で、町の中心部を流れる天の川の大橋を通り抜けると、町立上ノ国診療所向かい側に当事業所が立地している。運営者は整骨院の経営者で、専門性を活用した機能訓練重視型サービスを取り入れ、利用者の身体機能低下防止につなげている。利用者は調査訪問日の前日から献立を考え、当日は朝から調理や掃除をして出迎えてくれたことは、家庭的であり家族の一員としてその人らしく暮らしている姿でもありました。職員は「自分の目標」、「ユニットの目標」、「会社の目標」を連動しながらレベルアップに努め、利用者一人ひとりの意思を尊重し、尊厳を守りながら地元言葉で親しみを感じ、日々のケアに努め、新鮮な食材を使い飯寿司や漬物を一緒に作るなど、利用者の残存能力を活かしながら、地域の方々と交流を重ねている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(おだやかアウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おだやか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者および職員が事業所の有する専門性を活かし、積極的に地域の方々との交流をしながら、独自の理念を作り上げている。	管理者、職員は地域密着型サービスの意義を理解しており、利用者の地域生活の継続を主眼とした理念を共有し、サービスの提供に取組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	恒例行事は年間計画に盛り込み、その他にも地域の行事やイベントが無いか常に情報を集めており、利用者様に促し、多くの地域イベント等に参加できるよう連携し参加している。	町内会行事の、お祭りや清掃活動に利用者と共に参加したり、産業まつり、カラオケ教室、民謡発表会などには積極的に向き、町内会、女性部による踊りの慰問を受け入れるなど地域との交流は盛んにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所では研修等を職員に促し、認知症の人への理解や支援の方法を振り返り、より良いケアに努めており、運営推進会議や地域の行事の際に地域の方々の相談に乗ったりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度(偶数月)に運営推進会議を開催しており、ご家族や地域の方々との意見をもとにサービスの工場を図っている。	2か月毎に開催している運営推進会議は包括、地域、行政、家族などの構成員の参加で実施しており、事業所の運営状況や行事活動・災害対策・町内会活動の情報入手など多岐にわたり協議しサービスの質の向上につなげ、全家族に報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場保健福祉課および地域包括支援センター職員は、運営推進会議へのご出席いただく他、必要時には役場へ訪問し事業所の情報や取り組みを伝え、協力して頂けるよう取り組んでいる。	町担当者・包括支援センターとは介護保険関係・相談事など常に連携し協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症介護指導者を講師に社内研修を開催し正しい認識を職員全員で共有している。身体拘束に関しては委員会を設置し、委員が中心となって身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止マニュアルの整備や、講師を招いて「不適切なケアについて」の議題で内部研修会を実施したり、身体拘束廃止委員会の職員が中心となり、日常のケアの中で気づきや確認をしながら声かけするなど、身体拘束をしないケアへの意識は極めて高い事業所である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記社内研修の他、事業所に送られてくる研修案内やキャリアパス支援事業で学ぶ機会を持ち、虐待の見逃ごしが無いよう注意を払い、防止に努めている。		

グループホーム おだやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おだやか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	別ユニットで福祉サービス利用援助による金銭管理を利用している方がおられ、支援員さんと成年後見制度の利用を検討しているため、各制度について学ぶ機会を持つ他、活用できるよう行政に協力を依頼している例があるため同時に学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人及びご家族等の納得が得られるよう話し合い、また、家族側からの要望に応じて行けるよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設けたり、ご家族の来訪時には必ずお声掛けをすることにより、利用者やご家族等の意見を尊重し、それに対し管理者や職員で話し合う機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の面会時に声かけし意見や要望の聴取に努めているが、老々介護の家族、道社協の生活支援員と連携している利用者など、一人ひとりに合わせて関係者と話し合い反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りの他、個人面談をしたり、毎月各一回全体会議およびユニット会議を開き、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	日々の申し送り時や必要に応じての個人面談の実施など、職員とは常にコミュニケーションを取りながら、個々の「目標設定」を通して、より良い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役員は、職員1人1人のケアの実際と力量を把握するため、日々の勤務状況を確認する他、個別に課題設定シートを作成し向上心を持って働けるよう取り組んでおり、定期的に面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修でケアの向上を図り、職員1人ひとりの力量を把握し外部研修へ参加する機会を持てるようにしており、必要に応じて勤務の調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役員は研修や懇親会に出席する他、他社とキャリアアップ支援事業を連携して行ったり、勉強会の手伝いや参加をし合うなどして、職員が同業者と交流したり、相互訪問するなどサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おだやか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階でご本人からお話を伺い、困っている事や不安な事、ご要望などに耳を傾け、環境作りとご家族の援助を中心に関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階でご家族等が困っている事や不安、ご要望に耳を傾け、ご本人とも話し合い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員が間に入り、お話を聞き、求めている事に耳を傾け様々なサービスを展開できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人に役割を持って頂く事により、自身の存在価値を見出していただき、地域性を活かした中で暮らしを共にする同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも、役割を持っていただくなどして出来るだけ協力していただけるよう、共に支える関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人に面会に来られる方との関係等を大切にしたり、昔からの地域のイベントへの参加や馴染みの場所への訪問など関係が崩れないように努めている。	面会時に訪れた方が利用者と同じ地域の出身者で、知人、友人の関係で再会を喜ぶ姿が見受けられたり、馴染みの美容院や雑貨店を利用するなど、関係の継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合い、支え合えるよう、日々の暮らしの中にレクリエーションやリハビリ等を取り入れ関わり合う時間を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おだやか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もご家族と連絡をとったり訪問するなどして相談や支援を行っており、特に、死亡により契約が終了した場合はその後の精神的なケアに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に「どんな暮らしがしたいか」「ここへ来てどう思ったか」を伺いながらケアしている。困難な場合はご家族や関係者に協力を仰ぎ、本人本位にサービスできるようにしている。	契約時に本人・家族からの思いや意向の把握と生活歴を入手し、知人友人からの情報を得ながら、本人の全体像を知り、職員間で共有して介護計画にも反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者及び計画作成担当者が入居前の生活の様子をご家族等から情報を収集し、担当者を配置することにより担当者を中心に経過を観察することで、漏れ無く把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各担当者が中心となり、他職員と情報交換しながら、ケアプランを理解し様々な事に目を向け現状を把握出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議の時に各担当者が意見を出し、それに対してケアマネージャーが職員同士の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の意向を取り入れた介護計画原案を基にユニット会議で職員の意見やアイデアを反映させ、モニタリングを繰り返しながら現状に合った介護計画を作成している。個人の計画とケアの連動は#記号で記入して職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録には、職員との関わりの様子や自ら発した言葉、行動などを記録し、その中で気付いたことに関して職員間の申し送りでも共有し実践しており、その情報をもとに介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズを尊重し、その場その時の状況に合わせたサービスを随時行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のクリーンアップ作戦への参加や、ご家族が加入されている地域の婦人部の踊りの慰問や町内会のお祭りへの参加等により、利用者は地域で生活している事の理解を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人及びご家族の希望を大切に、ご本人が認知症であることをご理解いただきながら、納得が得られるよう支援に努めており、変化時は早めの受診、ご家族への報告を行っている	事業所の目前にある上ノ国診療所が、利用者のかかりつけ医であり事業所の協力医となっているが、専門外治療や遠方受診には家族が対応している。利用者の状態に変化がある時には職員も同行し情報提供している。	

グループホーム おだやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おだやか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、当事業所には看護職員が不在であるが、診療所が向かい側にある事を活かし、医療関係と連携を図り適切な受診や看護を受けられるよう、情報提供書の整備など協働に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、速やかにその方の情報提供書を提出し、口頭でも説明している。また、また、面会や医療関係者との面談を密に行い、早期に退院を出来るよう、病院関係者との情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化していく際に起こりうる事や事業所で出来る事を管理者よりご家族へ説明し、終末期を迎える際には、ご本人・ご家族・医療が常に連携を取って行けるよう間に入り、連絡を取り合いながら最適な支援が出来るよう取り組んでいる。	契約時、重度化に伴う事業所としての指針を説明し、家族の同意を得ているが、かかりつけ医の判断により終末期近くなるとインフォームドコンセントで家族の意向を再確認し、全体会議で職員と共有しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを常に職員が手に出来る所に保管しており、急変や事故発生時は速やかに行動できるよう、対応を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回実施しており、夜間を想定した訓練も行っている。また、近所の方の協力を得られるよう運営推進会議にてご報告し、ご意見を頂くなどしている。	年2回、日中と夜間想定した訓練には利用者も参加して実施している。家族や近所の方々の参加があり、勝山交流館や道の駅「もんじゅ」を避難場所として確保しており、備蓄も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの生活歴や羞恥心を大切にし、その方、その時に状況に合わせた言葉かけや対応をしている上、社内研修などで振り返りを行っている。	社内研修の「不適切なケアについて」の議題の中で、利用者の羞恥心に伴う配慮、声かけ、呼び名の工夫などを話し合い、一人ひとりの人格を尊重して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、思いを引き出せるような言葉かけを行っている。言葉に表せない利用者様については表情やしぐさなどから思いをくみ取り、自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の気分や体調を確認し、無理強いすることなく、その方の意思やペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るよう、その人の力に応じ支援している。		

グループホーム おだやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おだやか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、下膳、茶碗拭き等を協働で実施。個々に役割が出来上がって来ている。	職員は利用者の出来る事を見極めながら調理、献立、後片付けなどを見守り一緒にしている。利用者は以前の勤を取り戻した様子で楽しそうに1日の活動のひとつにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の状態に合わせて食事の形態や量を変え、利用者に応じた支援をしている。食器等にも配慮し、水分はお好みを把握し、無理なくこまめに摂っていただけるよう配慮し、1日のトータルを記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様の状況に合わせた口腔ケアを行い口腔内の観察をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛けを行っている。また、落ち着かない等のサインを読み取り支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンの把握を基に、習慣や羞恥心や不安に配慮し、さりげない声かけや誘導で自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響は社内研修等で学び理解しており、水分を摂っていただく工夫や、日々の体操等、出来る事は行って頂き、活動で気に過ごせるよう予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時には温度やタイミング等、一人ひとりの希望に添えるよう配慮しているが、入浴は自らの訴えで希望される方がいらっしゃらない為、定期的に職員が促している。	週2回の入浴を基本としているが、利用者の希望で自由に入浴できる体制を整えており、職員と一緒に歌ったり会話を楽しんだり拒否する方もなく、状況によりシャワーや清拭を取り入れながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣や睡眠パターンを把握し、その方に合わせた休息方法や眠りへの環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品名や用法の確認、服用時は飲み込みまで確認をしている。調剤表を個人ファイルに綴り、副作用などを周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やその方の得意な事、好きな事を理解しており、気分転換を図れるよう努めている。		

グループホーム おだやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おだやか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り、ご本人の希望に添った外出支援になるよう、ご家族にも協力を求め、協働で支援している。	季節に合わせて各ユニットで遠出のドライブを楽しみ、天気の良い日は散歩や買物、畑へも日常的に出かけている。諸般の事情で自宅解体の時には本人、家族と共に職員も見守り、時々、利用者が思い出すと出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や力に応じ、管理できる方は小額ではあるものの、自己管理をされている。また、預かっているお金も、ご本人の希望に添い、買い物に使う事が出来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙を書かれる方はいらっしゃらないが、お手紙を頂いて読むことは出来ており、電話は希望時に自由に使い、家族と会話を楽しんでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々、利用者様に不快や混乱を招くような刺激が無いか確認し、殺風景にならず過ごしやすい環境となる様に配慮しており、季節の行事や習慣に合わせた飾りつけをし、季節感を味わえるよう工夫している。	吹き抜けの天井は、威圧感がなく天窗から光が差し込み、白で統一している室内は明るく、不快な音や臭いもなく、大きな空気清浄器は加湿器と殺菌装置を兼ね備え、季節に合わせて飾り付けを工夫し、安心感のある場所に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で一人になれるスペースは無いが、食卓テーブルは気の合う同士と一緒に過ごせるように分割する等の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所決定時に、ご本人やご家族に今まで使用してきた使い慣れた物や、ご本人が大事にしている物を持参されるようお願いをし、ご自宅を訪問して物品の確認や持込み品の提案をさせていただくなどしている。	居室にはクローゼットが備え付けてあり、冷蔵庫やタンスなど家具類や日用品が持ち込まれ、家族の写真やお便りが飾られ、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	字が読める方には張り紙の工夫をしたり、歩ける方には必要な個所に手すりを設置したり、家具を置くなど、1人ひとりの出来る事を理解し、行動を見守り、ご本人が安全で自立した生活を送れるよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O171600281		
法人名	有限会社 四海堂		
事業所名	グループホームおだやか		
所在地	北海道檜山郡上ノ国町字上ノ国274番地の1		
自己評価作成日	平成25年11月18日	評価結果市町村受理日	平成25年12月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「おだやか ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0171600281-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年11月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(おだやかにアウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おだやかに)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は普段から目に付くところに掲示し、日々、理念の確認を行い、理念に添って具体的なユニット目標等を立てる事により実践に繋げるための努力をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のクリーンアップ作戦やお祭り等、地域の行事への参加や歌や踊りのボランティアも積極的に受け入れて地域交流を盛んに行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方が地域でも生き生きと生活できるよう、地域の方々にご協力を仰ぎながら理解の促進に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回(偶数月)開催しており、その内容を参考にし、職員会議で話し合いを持ちながらサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場保健福祉課および地域包括支援センター職員は、運営推進会議へのご出席いただく他、必要時にはこちらから役場へ訪問し事業所の情報や取り組みを伝え、協力して頂けるよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症介護指導者を講師に社内研修を開催し正しい認識を職員全員で共有している。身体拘束に関しては委員会を設置し、委員が中心となって日頃からケアの方法を見直すようにし身体拘束をしないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様に社内研修を中心に学ぶ機会を持ち、虐待の防止に努めている。		

グループホーム おだやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おだやかに)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	福祉サービス利用援助による金銭管理を利用している方がおられ、支援員さんと成年後見制度の利用を検討しているため、各制度について学ぶ機会を持つ他、活用できるよう行政に協力を依頼する等の支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は分かり易い言葉で不安や疑問を持たれない様、十分な説明を心掛け理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱(意見箱)を玄関に設置すると共に、ご家族の来訪時には職員がお声掛けをしている。ご意見があった際は、会議の中で協議し、改善に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りの他、個人面談をしたり、毎月各一回全体会議およびユニット会議を開き、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役員は、個々の実績や勤務状況を把握しており、やりがいを持てるよう研修会への参加の促進や、個々の様々な活動力を発揮できるよう個人目標を設定し面談を行うなど取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は勤務調整を行い参加を促している。その後、会議の場等で出席者が発表し全員で情報を共有している。また、社内研修を開催し全職員が同じテーマについて学ぶ機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役員は研修や懇親会に出席する他、他社とキャリアアップ支援事業を連携して行ったり、勉強会の手伝いや参加をし合うなどして、職員が同業者と交流したり、相互訪問するなどサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おだやかに)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族・ご本人の他にも相談の段階から多く関わりを持ち、情報収集し、ニーズを把握出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安にならないよう情報共有に努め、来訪時には積極的に声掛けを行っている。また、入居間もなくはその日の状態などをお電話にてご報告し安心を促している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用を開始する際には、ご本人とご家族の今抱えている問題を確認しニーズを引き出ししている。その際、ご本人がどの様なサービスを必要としているか総合的に判断しており、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心情や思いを言動から理解できるよう努めており、なるべく家庭に近い雰囲気でも過ごして頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会を大切に、日頃の様子をお便りやお電話にて報告し、共に利用者様を支える関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内会のお祭りや、産業祭りなどの昔からある地域のイベントに参加をしたり、慰問やボランティア等にも来訪して頂き、馴染みの人や場との関係継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの個性を見極め、出来る事は自身でやっていたいただき、協力し合って生活できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おだやかに)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域で会った際に交流の場となるよう声掛けを行い、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を設けるなどし、個別ケアに力を入れ、1人ひとりの希望や以降の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者及び計画作成担当者が入居前の生活の様子をご家族等から情報を収集し、アセスメントシート等を作成し、ファイルすることで把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活パターンを把握し、出来る範囲で家事活動などに参加して頂いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を行い、利用者様主体で具体的な介護計画を作成するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃から個別ファイルに言動や変化等を記録しており、申し送りや会議を通して職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の観察や日頃のコミュニケーションから、ニーズの変化に対し早期に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のクリーンアップ作戦への参加や、ご家族が加入されている地域の婦人部の踊りの慰問や町内会のお祭りへの参加等により、利用者は地域で生活している事の理解を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人及びご家族の希望を大切に、ご本人が認知症であることをご理解いただきながら、納得が得られるよう支援に努めており、変化時は早めの受診、ご家族への報告を行っている		

グループホーム おだやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おだやかに)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護職員が居ないが、アセスメントシートを作成し、病院の看護師等とスムーズに連携がとれるよう受診や入退院の際に情報提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院へ行き、看護師へご本人の状態の確認と事業所の受け入れ態勢の説明をし、出来るだけ早期に退院できるように調整をしている。また、退院が決定した場合には、医師へ今後の対応について説明を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご本人・ご家族等と話し合いを行い、以降の確認をしている。また、事業所で出来る事を十分に説明し、理解を求めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網と入居者様の緊急連絡先を掲示している他、緊急マニュアルを目の届くところへ用意している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回実施しており、夜間を想定した訓練も行っている。また、近所の方の協力を得られるよう運営推進会議にてご報告し、ご意見を頂くなどしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個性を尊重し、それぞれの利用者様にあった声掛けをするよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情を見極めて、こちらから声掛けをするようにしている。開かれた質問で声掛けするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活パターンや好みなどを把握し、自分のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容室では、自分で髪型をリクエストしている。化粧をしている方もいらっしやるので楽しんでもらえるように支援している。		

グループホーム おだやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おだやかに)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の食事の好き嫌いを把握し、必要時は別メニューを提供している。また、調理に参加して頂き、一緒におかずを作る機会を大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量や水分の記録を行い、状態の把握に努め、1人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援が出来るよう変化がある場合は申し送り確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台で口腔ケアを行っている。習慣化されているため、自ら行う方も少なくない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や運動への働きかけを行い、便秘の予防と対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番、温度、時間など、1人ひとりの好みを尊重し、楽しんで頂けるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や精神状況により必要な休息を取っていただいたり、安心して眠っていただけるように眠前にひと言声を掛けるなどの対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個別ファイルに綴じ、服薬確認をしている。状態の変化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりに役割を持っていただくことで、メリハリのある生活を送っていただいている。また、楽しみごとや日課等を大切にしている。		

グループホーム おだやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おだやかに)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や日向ぼっこ、買い物などを通して外出の機会を設けている。ご家族様のご協力のもと、ご自宅への外出・外泊や他施設に入所しているご家族に会いに行くこともある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ち金を希望されている利用者様には、所持して頂いている。希望があれば買い物にも出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が掛けられる事は日頃から伝えている。ただ、面会で会ってお話しの方が嬉しい様子が見られる為、面会の機会を増やせるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには貼り紙をして、観ると分かるようにしている。また、共用空間では入居者様同士のトラブルが起らないよう、座席の配置に留意し、殺風景にならないようお花を飾る等している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファセットをホールの隅の一角に設け、そこで、1人又は少人数で団らんできるスペースとなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、使い慣れた家具をお持込いただき、居心地良く過ごせるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	数人のご利用者様の居室にハンガーラックを設置し、洗濯物を干して乾いたらたたんで片付けられるようにするなど支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム おだやか

作成日：平成 25年 12月 27日

市町村受理日：平成 25年 12月 30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		自己評価について前回は職員全員で行ったが、この度は一部の職員で行うこととなった。	次回は前回同様に職員全員で評価をする。	外部評価の日程調整に余裕を持つ。	1年
2	4	運営推進会議など、利用者家族との話し合いの場の確保が困難である。	話し合いの場が確保できるよう工夫する。	運営推進会議への参加率向上に向け、開催日程の調整や声掛けなど、事前の案内方法を見直す。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。